

## 療養病棟リハビリ ～【死を覚悟】からの在宅復帰～

## Q1.入院時、お身体はどのような状態でしたか？

右半身が全く動かなくなり、身動きが取れませんでした。  
もうこのまま死ぬんじゃないかと思いました。



## Q2.リハビリではどのようなことをやりましたか？

右上半身が少しずつ動くようになり、自分でも回復しているなと思いました。はじめは車椅子だったのが、歩行器になり、杖も試しましたが、必要ないと分かり、それ以降は何も使わず歩きました。階段の昇り降りや外へ歩きにも行きました。リハビリの先生から教えてもらった自主トレメニューも行いました。量が多く、目標値までいけない日もありましたが、毎日やるようにしていました。

## Q3.今お身体はどれくらい動くようになりましたか？

充分ではないけどある程度の事は自分で出来るようになりました。左手スプーンから右手のお箸になり、トイレも行けるし、外にも歩きに行けるようになりました。

## Q4.入院生活を振り返って感想を教えてください

最初はこのままずっとここに居るのかと思いました。体が動くようになり家に帰れる目途がたち気持ちが明るくなりました。

## Q5.退院後の生活の意気込みをお願いします

規則正しい生活をしていきたいと思います。

## Q6.最後に担当のリハビリ職員に一言お願いします

感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございます。



豊田えいせい病院  
リハビリ新聞

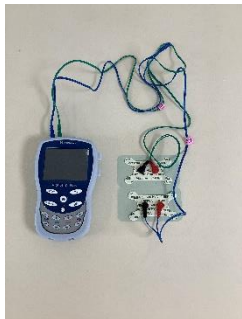


2020年  
7月25日  
第15号

## 低周波治療器によるリハビリ

当院では脳や脊髄疾患等、主に中枢神経に障害がある方に対して必要に応じて低周波治療器によるリハビリを実施しています。

嚥下機能障害のある方に対しても低周波治療器（Vitalstim-バイタルスティム）を利用したリハビリを提供しています。Vitalstimとは、嚥下（飲み込み）に関わる筋肉や筋肉を支配する運動神経を低周波を用いて刺激して、筋力を増強し、嚥下機能の改善を助ける治療器です。医師とともに嚥下造影検査で改善を確認しながら進めています。



低周波治療器  
(VitalStim)



実際の治療風景  
言語聴覚士による介入

## 杖の高さ調節について

## ～リハビリ小ネタ～

歩くときにフラフラして不安だからと杖を持ち始める方は多いと思います。私たちも利用者さんとの関わり始めにそのような話をよく耳にします。しかし「杖なんて使ったことがないし、どうやって使ったらいいかわからない。」という方が大半だと思います。今回は杖の使い方や長さ調節について簡単に紹介します。



- ・長さは腰の下の出っ張り（大転子）くらいにする
- ・力が強い足と同じ方の手でもつ



- ・杖と反対の足を一緒に出して歩く

杖を上手に使うことで転倒しにくく、歩きやすくなります。杖の使い方不安なことがあれば理学療法士など専門家に指導してもらおうと良いでしょう。



回復期病棟では  
日祝を含み365日  
リハビリをします

豊田えいせい病院 診療技術部

回復期リハビリ科 TEL: 0538-34-6123 FAX: 0538-34-6231

療養リハビリ科 回復期リハビリ科と共通

通所リハビリ科 TEL: 0538-34-6223 FAX: 0538-34-6222

訪問リハビリ科 TEL: 0538-34-6137 FAX: 0538-34-6231